

人命の大切さ

(1) 年(6) 組(43) 番
 氏名(春名愛優)

去年の10月20日に私は忘れたくない体験をしました。それは、台風23号の事です。その日、学校は授業を中断して家に帰りました。風が強く、夕方に近づくにつれて雨も降ってきました。家の前にはもつ川の水があふれてきて、急いで2階に物を運んでひなとしました。三江地区にいて、これくらいどうなるんだろうと不安な気持ちで一晩をすごしました。朝がまると停電しててニュースで今のくわしい状況が分からなかつたけど、とにかく大変なことがおきているのは分かりました。それは四階の窓から見た道路も田んぼも学校のグラウンドも水びたしだったことです。

近隣の店に行く人がいよいよ食料を買っていました。そして、親が家を見に行くとその状況を聞くと家は床上浸水でどうも水、家具はたおれて電化製品すべてが水につかり使えない...そんな状況を知って私は悲しい気持ち、ショクな気持ちですべてで「やませになた」そんな気持ちでした。かたづけをするとき、大工さんの人が来て、手伝いサ食料を山ほどもらいました。小さい子供、使っていたおもちゃ、思い出がった「写真や家具...」その全部がトラックに押しつぶされて、持ていかれた時、胸が押しつぶされる気持ちでした。学校に行くと友達がいっぱい通って、「おはよう」といおれたとき私はほっとしました。そのあと、学校ではバのケアをせたり、マスクも付けるように言われたり、いろいろなところから物をもらい、すごしてくれました。この台風で教えられることは、「命の大切さ」です。『ふだんの生活の大切さ』でした。家に居てテレビを家族といっしょに見て笑って...こんなこともないことがとても大切なんだなあと感じます。一年たった今も、もう一度このことをふり返って考え、すごしている時間を楽しくすごしたいと思っています。台風23号のまじなような体験ができれば、みんながたのびもあつたのであつたと思えます。